

真のクールジャパン映画

錦織監督

映画の現場から



2014年初頭、島根で紡いだ4本の映画をあらためて振り返った。よく「なぜ島根を舞台に?」との問いかけをいただくが、故郷の多くの皆さんにご協力いただいたからこそだとと言える。心から感謝している。

映画の企画段階では東京のスポンサーのほとんどが島根を知らない中、全国公開決定に至るまで多くの方々にご協力いただいたのも大きな理由の一つ。良い経験となっている。

地方を舞台にした原作が何百万部も売れている全国公開映画はあっても、オリジナル企画の地方映画の全国公開映画は多くない。そして何より、全国の試写会などで鑑賞後に寄せられた多くの観客の皆さんの声は私にとって大きな財産だ。

映画1本の中には、たくさんさんの情報が詰まっている。見たことも聞い

「島根印」に乞うご期待

●●57

たこともない地域の景色、風土、食、ファッション、環境、歴史、宗教などなど、多岐にわたるカルチャーに触れられることこそ映画の醍醐味だ。

また、映画は公開までに、その製作意図やロケ地の歴史などを多様なメディアによって発信することができる。さらに、映画を撮り始める

(クランクイン)までの期間や、撮影が終わる(クランクアップ)まで、公開まで、映画公開中、公開後のDVDなどのソフト発売までの期間…と宣伝が続く、この間の情報発信は膨大な量となる。

その後、DVDなどの発売、レンタルビデオ店での展開、BSやCS、地上波テレビ、ホールな

どでの自主上映もあり、作品によっては海外映画祭への出品・公開により何年も、世界の多くの人の目に触れることになる。

今年は、島根ロケ第5弾で「たたら製鉄」を題材にした時代劇映画の準備に入る予定だ。日本海文化圏に着目した映画というくくりで、島根の歴史と日本海文化圏との関わりを掘り下げていきたい。

島根にはまだまだ「既成概念の穴」がたくさんある。私はそれこそ真のクールジャパンに他ならないと確信している。出雲大社の大遷宮によって、多くの人々の耳目が島根に注がれている今だからこそ、「はじまりの地」「神秘の国」「いまだに古代の製法によって鉄が造られている地」「水がきれいで、自然が豊かで、歴史に裏付けられた本物がある場所」というイメージがわいてくるような映画にしたいと思う。

島根印の世界発信映画に、乞うご期待。

(錦織良成・映画監督)

第4金曜掲載



平成の大遷宮が進む出雲大社に詰めかけた初詣客。多くの人の耳目が島根に注がれている。1日、出雲市大社町杵築東